

本誌は、県民の皆様に山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。

## >>9月～11月の子ども読書支援センター事業関連の問い合わせ及び職場見学件数

9月～11月に窓口または電話等で問い合わせのあった件数は次の通りです。

合計 76件 内訳…9月:18件 10月:36件 11月:22件

また、9月～11月の職場見学数は24件でした。

## >>中堅図書館職員向けの「児童青少年サービス講座(中級編)」(第3回、第4回)を実施しました。

平成25年9月19日(木)、「日本の児童書の選書について」と題して宮川健郎氏(武蔵野大学教授)による講義があり、45名が参加しました。大人の本と子どもの本の違いや大人と子どもの本に対する評価のずれ、子どもに本を薦めることについて、また児童文学の描き方についてお話がありました。

また、10月23日(水)には「ヤングアダルト向けの本の選書について」と題して井上靖代氏(獨協大学教授)による講義があり、42名が参加しました。中高生へのサービスの必要性、その年代の特性に基づいた図書館サービス、また様々な事例を紹介しながら効果的な手法についてお話がありました。その後グループに分かれ、課題になっていたブックトークの発表を行いました。



## >>子どもの読書活動推進スキルアップ講座「子どもの本を知る・連続講座」(第3回、第4回)を実施しました。



平成25年9月5日(木)、「学校図書館の可能性」と題して小川博規氏(東京都荒川区学校図書館支援室長)による講義があり、40名が参加しました。教員にとって学校図書館が使いやすくなるように工夫したこと、教育目標と図書館の関連付け等についてお話がありました。

また、11月22日(金)には「新美南吉童話の魅力～なぜ日本人は『ごんぎつね』に惹かれるのか～」と題して鶴田清司氏(都留文科大学教授)による講義があり、41名が参加しました。南吉童話の視点や語り口等の特徴についてお話いただきました。様々な切り口による『ごんぎつね』の読み方を紹介していただき、受講者も新鮮さを感じたようです。

## >>山梨県立図書館ウェブサイト子ども読書ボランティアバンクを公開しました。

県内の子どもの読書活動推進に関わるNPO、ボランティア団体と、読み聞かせなどの実演を希望する団体を結びつけることで、県内の人材を活用し、子どもの読書環境をより豊かにすることを目的として設立しました。ぜひご利用ください。 [http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo\\_shien/post\\_2.html](http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shien/post_2.html)

- \*各団体の活動内容を見ることができます。
- \*実演依頼を希望される場合は、ページにある注意事項をお読みの上、団体へ直接お問い合わせください。
- \*依頼にかかる費用については依頼者の負担となります。

## >>平成22年度～平成24年度「子どもの読書活動指導者養成講座」報告(3)

過去3年間に実施した研修の概要を、3回にわたって報告していきます。今回が最終回です。

県内の子どもの読書活動に携わる方を対象に、指導者的役割を担う人材を育成するため、平成22年度から3ヵ年計画で、1年目は子どもへの読み聞かせ・おはなし等を実践するボランティア活動の経験者、2年目は図書館職員、3年目は幼稚園・保育園等職員を研修対象とし、読書活動の専門知識及び実技を学ぶ研修を実施しました。



## 平成 24 年度 講座内容

### 【第 1 回】

日時:平成 24 年7月 31 日(火) 午後1時半～4時半

場所:山梨県立文学館 参加者:43 名

平成 24 年度の第1日となる今回、開講式を行った後に講義を開始した。

#### 講義「幼い子の生活と絵本Ⅰ部

##### ～赤ちゃんの絵本を考える～

中村 柁子氏(青山学院女子短期大学)

赤ちゃん絵本の種類や読み方を説明しつつ、子どもを生き生きさせる絵本を見抜く目をどう培うかについてお話があった。受講者による読み聞かせの実践もあった。

最初は乳児にとっての絵本の意味の説明。赤ちゃんの本はコミュニケーションがポイントとなるということだった。そして、絵本の種類とその特徴を具体的な絵本を示しながら説明された。「ものの絵本」では、ものに名前があることを伝え、生活と結びつけるのが保育者の仕事だということだった。「音の絵本」は読書嫌いの子どもに向いていること、「人とかかわりの絵本」は信頼関係を持つ嬉しさを感じさせる本であること、昔話絵本は再話のされ方や絵の描かれ方が問題になることを説明された。「おはなしの本」は子どもが本からイメージを借り受けて遊びに転化させるため、シンプルな出来のストーリーが良い。また、子どもが聞いてイメージできるようにするよう、素話をするのも良いということだった。

次に、子どもに読むことについて。まだ字が読めなくても、絵本を手渡す時に本を投げたり踏んだりしてはいけないということは教えられる。子どもは読み手の感情を聞いているので、人の声で読むことは CD の再生等とは違う。また、読む大人の心にゆとりがいるとのことだった。キャラクター絵本やしかけ絵本を選ぶ時の注意点にも触れられた。

3歳以上は言葉や体験が広がり、知りたい世界も広がっていく、それ以降の読書の土台になる時期である。色々な絵本があるが、子どもたちのその時の姿に合わせて読んであげることが大事とのことだった。

最後に、色々行ってみて実感を大事にしてほしいと締めくくられた。

### 【第2回】

日時:平成 24 年8月9日(木) 午後1時半～4時半

場所:びゅあ総合 参加者:41 名

#### 講義「幼い子の生活と絵本Ⅱ部

##### ～幼児の生活と絵本を考える～

中村 柁子氏(青山学院女子短期大学)

保育の場で本の意味を考える時に大事なのは「誰のための絵本か」ということ。言葉のある暮らしや遊び・豊かな経験を与えるために絵本を手渡すということで、絵本のテーマ毎に特徴を説明し、幼児に対する絵本の読み方や選び方についてお話があった。

最初に、不思議な世界を面白がるようになる3歳児、人の目を気にしたり失敗を恐れたりするようになる4, 5歳児に、どのようなことに気を付けて読むかお話しいただいた。一

つは、遊び・体験と本を往復するような、繰り返し読む核になる本を作ってあげること。また、人間への興味・共感・反発を感じるようになるので、登場人物に自分を重ねられる本も良い。そして、身の回りのことを不思議だと思ったら科学絵本を。「なぜ」という気持ちから意見が生まれるという。本を選ぶ時には、どんな物語と出会わせているか、興味があるのは何かなどクラスの状態を考えるのも必要とのことだった。

次に、読み手の心構えについて。まずはゆっくり丁寧に読むこと。声に出して読むことは関係を作っていくことでもあるので、読む時の雰囲気や声に気を付けたいということだった。

それから、絵本を選ぶ時の注意点について。見た目が「かわいい」＝「良い」とは限らない。子どもの身の丈に合わせて語ってくれているか、無駄な色が無く物語に真っ直ぐ入っていけるかなどに注意する。

子どもには新しい本も読んで現代の風を吹かせてほしいが、その基準作りのためのアドバイスとして、ロングセラーを読んだり、図書館やブックリストを活用したり、先輩に聞いたりすること等を挙げられた。

図鑑や昔話絵本についても、図書館を活用してどれを選ぶか考えてほしいとのことだった。そのためにも、話し合える職員集団であることが大事だということだった。

### 【第3回】

日時:平成 24 年9月5日(水) 午後1時半～4時半

場所:山梨県立文学館 参加者:36 名

#### 実習・講義「わらべうたの力」

森島 瑛子氏(わらべうたの研究者)

荷物を置いて円形に座り、全部で 26 のわらべうたを実践した。

顔を合わせて伝える乳児へのわらべうたと幼児へのわらべうたの違いについてお話があり、歌を知らない時は聞くこと、歌う時は首を振らないこと、歩く時は行進せずに自然に歩くこと等、わらべうたを歌う時に気をつけることを教えていただいた。

具体的には、「よいさっさよいさっさ」「せつくんぼせつくんぼ」「なかなかほい」「ぜんぜがのんの」などを歌った。全員が輪になって肩を組んで揺れたり、二人組になって歌ったり、色々な遊び方でわらべうたを体験した。

### 【第4回】

日時:平成 24 年 12 月4日(火) 午後1時半～4時半

場所:山梨県立図書館 参加者:27 名

#### 講義「遊んで学ぶ～科学絵本のすすめ～」

土井 美香子氏(科学の本の読み聞かせの会  
ほんとはんと副代表)

実際に実験をしながら、科学絵本と実験でどのように科学というものを子どもに体験させるか、どのように体験を言葉にしていくかについてお話があった。



## 【第5回】

日時:平成 25 年1月 10 日(木) 午後1時半～4時半  
場所:山梨県立図書館 参加者:79 名

公開講座として開催し、子どもの読書活動指導者養成講座受講者以外に 48 名が参加した。

### 講義「ことば遊びの楽しみ」

阿刀田高山梨県立図書館長

所々で日本の代表的な言葉遊びである駄洒落を例に挙げながら、子どもと言葉の関係についてお話しいただいた。

読書習慣を身に付けるには努力がいるが、身に付けたか付けなかったかは一生に影響する。従って子どもの頃に読書習慣を身に付けるのは大切だということだった。子どもは言葉遊びが好きで、そこから読書や言葉への関心に発展していくこと、また文字には文化が刻まれていることについてもお話があった。

文字を憶えれば、考えることを憶え、コミュニケーションが生まれる。言葉の獲得は非常に大切であり、読書によって人生は楽しくなるということだった。

参考資料『ことば遊びの楽しみ』(岩波書店、2006 年)

ここから養成講座受講者のみ2グループに分かれて地下書庫から2階までを見学。その後、4グループに分かれ、講座で学んだことや各園での情報等、自由に意見交換を行った。

続いて閉講式を行い、講座の8割以上に出席した 19 名の方に修了証を授与した。

空気をテーマにして、長方形に切り抜いた紙を上から落とす実験や、水に浮かべたピンポン玉の上からコップをかぶせて玉がどうなるか見る実験を行い、子どもには理解しにくいことでも実験で見せられること、遊びながら科学の定理を体験できることを教えていただいた。

また、科学は体験することが重要だが、大切なのは遊びっ放しにせず言葉というものに抽出していくこと。科学絵本は子どもが体験を言葉にする助けになるので、子どものつぶやきに耳を傾け、言葉をかけて少しだけ導くのがポイントということだった。

専門家が書いた科学の本も、読み聞かせすれば子どもの手に届く。図書館はありとあらゆるカテゴリに扉を開いてくれる場所なので、図書館で読み聞かせをしてほしいとおっしゃった。

#### 紹介資料

『ぬ〜くぬく』

(飯野和好さく、山本孝え、農山漁村文化協会、2007 年)

『くうき』(まどみちお詩、ささめやゆきえ、理論社、2011 年)

『くうきのかお』

(アーサー・ビナード構成・文、福音館書店、2004 年)

